
 紹介

西友ファーム福島農場紹介

吉田武憲*

はじめに

養豚の多頭化に伴って起こる豚の慢性疾患による経済的損失と糞尿処理によるいわゆる畜産公害は、いまもって解決されたとはいえ安定企業養豚の阻害要因となっている。この問題のうち慢性疾患による養豚の経済的損失を解決すべく関係機関および民間企業によって豚のSPF化に長年月が費やされ、現在すでにSPFの肉豚生産が行われている。その成果は一部未解決のものを残しながらも高く評価されている。

当社はこのSPF豚の有利性を企業化によって生かし、一般家庭の食卓に清浄豚肉を載せるためSPF種豚を住商丸森農場より導入し、繁殖肥育の一貫生産を行い、さらに無公害畜産を旨とし西武化学工業と新潟鉄工所の共同開発による場内にて糞尿を完全に処理できる堆肥化製造プラント一号機（コンポスト工場）を建設した。

当場が処女地であること、また関係各位の指導さらに場長以下従業員が一丸となり細かく管理を行っているためか幸にして大きな事故もなく現在に至っているが、この環境を将来にわたり維持すべく日夜努力している現状である。

ここで当場の概況を紹介する。

当場の位置と環境

当場は福島県の南、いわき市郊外に位置し、茨城県との境に近く、太平洋岸に沿って走る常磐線平駅の手前常磐湯本駅より約15km山間部に入る遠野町にある。福島県を三分すると、

* ㈱西友ファーム福島農場

会津地方、中通り地方、浜通り地方になるが、当場はこの浜通り地方の気候下にあるため比較的温暖であり、冬の積雪はみられず夏は涼しく気候に恵まれたところである。湯本の温泉街から途中左手に常磐ハイアンセンターを見ながら、県道常磐一石川線を石川町方面へ車を走らせ人家もまばらになった遠野町に入ってすぐ手前右側の山を800m登りつめたところで、標高約200mで湯ノ岳の裾野にあり、天気の良い日は遙か南に太平洋が見られる。総面積8万平方メートルの南向き斜面を7段のヒナ段にし、各段に豚舎およびコンポスト工場が建ち並んでいる。人家は周囲の峰を越したところに数軒あるだけで、豚を飼うには申し分ない環境にある。

当場の建物およびその規模（図1）

建物群は

- | | |
|---|----------------------|
| 1 段面 (5,000 m ²) | |
| 管理棟 1 棟 50 m ² | |
| 飼料倉庫 1 棟 130 m ² | |
| 2 段面 (9,500 m ²) | |
| 肥育豚舎 2 棟 1,000 頭収容 1,200 m ² | |
| コンポスト工場 1 棟 5,000 頭規模 | 1,000 m ² |
| 3 段面 (8,900 m ²) | |
| 育成豚舎 2 棟 1,600 頭収容 686 m ² | |
| 肥育豚舎 2 棟 1,100 頭収容 1,200 m ² | |
| 4 段面 (4,300 m ²) | |
| 分娩豚舎 4 棟 156 頭収容 1,100 m ² | |
| 5 段面 (2,200 m ²) | |
| 休息豚舎 2 棟 240 頭収容 650 m ² | |

6 段面, 7 段面 (12,300 m²)
 雄豚舎 1 棟 36 頭収容 450 m²
 放飼豚舎 ♀ 9 区画各 15~20 頭収容
 ♂ 3 区画各 1 頭収容
 各法面 (6 カ所) 25,800 m²
 その他緑地 13,600 m²
 スロープ=牧草場 2,400 m²

であり, 給餌および除糞方法は, 放飼場, 雄豚舎, 休息豚舎, 分娩豚舎は人手により個体観察に重点をおき, 育成, 肥育豚舎は自動給餌機お

よびスノコ方式による自動除糞にて省力化で群観察を行っている。豚舎構造はすべて複式であり, 休息, 分娩, 育成豚舎はセミウインドレスを採用し, 分娩豚舎のみフロアヒーティングを行っている。雄, 肥育豚舎はオープン方式である。

また, 各豚舎からの糞尿は前述の人手およびスクレーパーによって各豚舎併設のピット内に貯蔵され, 定期的にバキューム車によって収集し, コンポスト工場に搬入, 完全場内処理によ

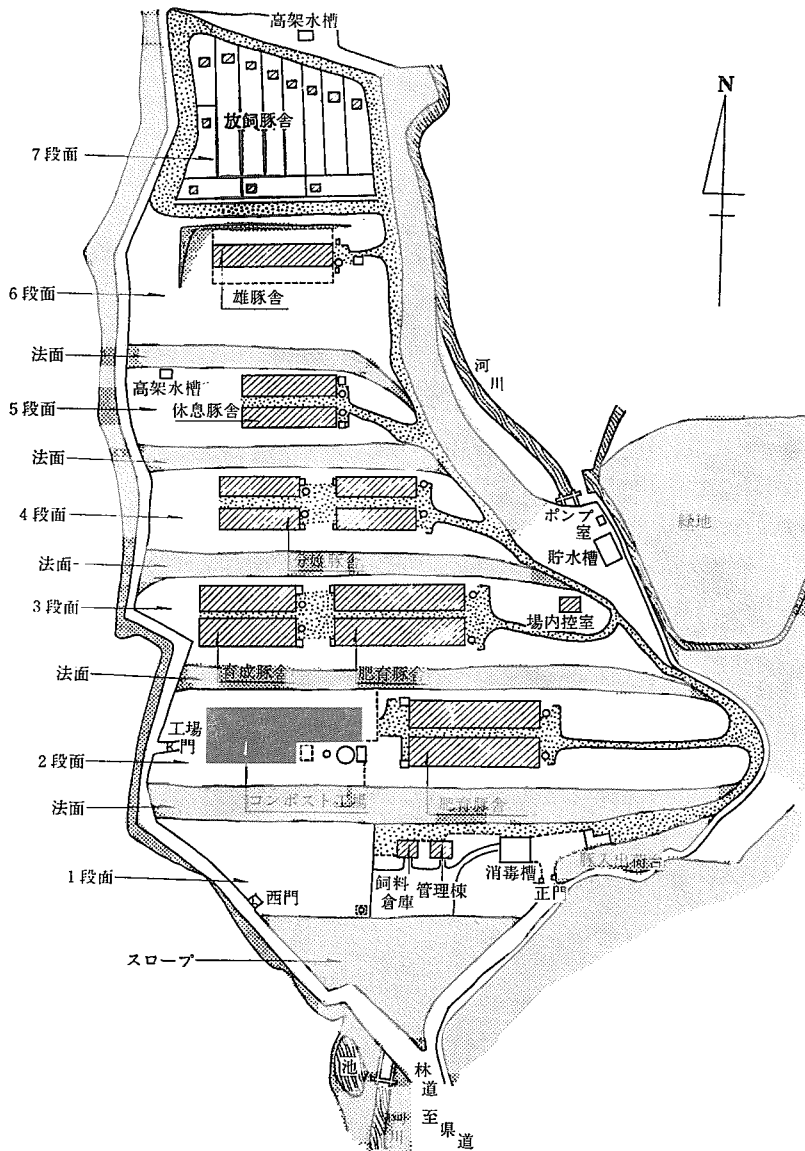


図 1 西友ファーム福島農場配置図

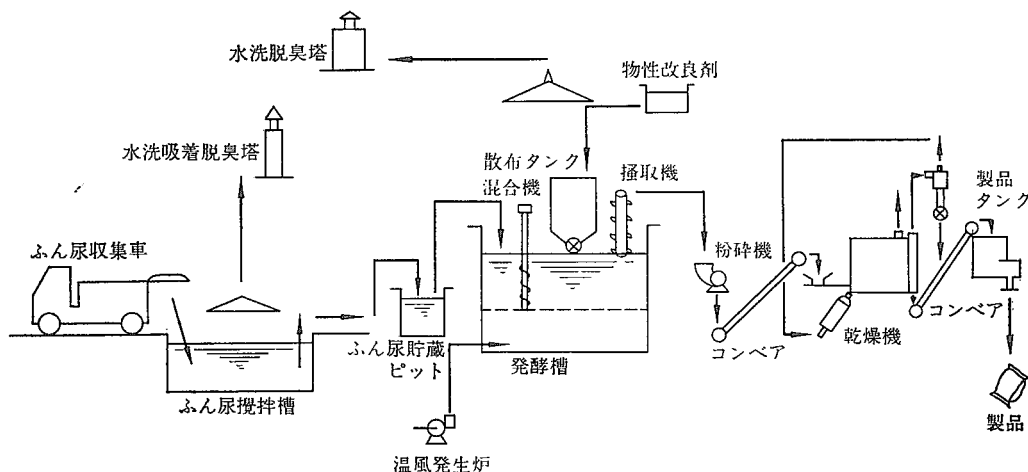


図 2 コンポスト工場の装置概要図

ってクローズドされており、場外流出はもちろん発酵方式であるので、悪臭もなく、水質汚濁、悪臭発散による畜産公害は皆無といえる。

コンポスト工場 (図 2)

無公害畜産を旨とするため建設された工場からのコンポストは次の工程によって生産される。すなわち、各豚舎から収集されたスラリーは攪拌槽を経て貯蔵槽に入る。そして発酵槽上に設置された走行台車および横行台車によってスラリーを貯蔵槽より吸引し、発酵槽内に注入し混合しながら発酵槽を移動する。物性改良剤の添加および酸素の補給を行い温度調節によって約4日で完全発酵され掻取り機によって発酵槽上部の完全発酵されたコンポストを掻取り機、粉碎機、乾燥機を経て袋詰めされ製品となる。

現在、西武化学工業の研究所にあるテストプラントから生産された同質のコンポストによって群馬県園芸試験場等関係機関で、あらゆる面の継続的試験を行い好成績を上げている。

製品化されたコンポストは良質の有機質肥料として広く蔬菜園芸農家等によって使用される予定であり、大きな期待がもたれている。

当場の現状と将来

当場は SPF 種雌豚 480 頭による繁殖、肥育の一貫生産を行うもので、昨年 8 月竣工式を行い開場した。

種豚は昨年 5 月より毎月 LW♀ と H または D♂ を住商丸森農場より導入し、昨年 12 月で予定頭数の導入は終わった。11 月より分娩が始まり今年 2 月約 30 頭、3 月約 60 頭の分娩が予定されている。

肥育豚は昨年 6 月から SPF の種豚不適格豚を導入し、肥育しているが、今年半ばから当場生産の肥育豚が出荷され、三元交配された SPF 豚肉が消費者の手に渡る予定である。

コンポストは今春 4 月ごろより製品化され、日産約 2~3t の袋詰めされた有機質肥料が各農家で使用されることになる。

おわりに

近い将来、地元で SPF 肥育豚の団地づくりと有機質肥料の供給の基地となるべく、当場の充実をはかるため細心の注意と観察力によって鋭意努力している現在である。